



JR東労組仙台地本 FAXニュース

2018年 4月24日

NO. 74

発行: 仙台地本教宣部

JR福知山線脱線事故から13年

明日25日、JR福知山線脱線事故から13年を迎えます。2005年（平成17年）4月25日9時18分頃、福知山線（JR宝塚線）塚口駅一尼崎駅間で発生した列車脱線事故は、乗客と運転士合わせて107名が死亡、562名が負傷する大惨事となりました。JR発足後は1991年（平成3年）の信楽高原鐵道列車衝突事故の死者42名を上回る事故でした。事故の要因は運転士の速度超過とATSの整備の遅れなどと言われていますが、当時のJR西日本の日勤教育のやり方に対する運転士の精神的な要因が挙げられ、国土交通省の事故調査報告書によると、事故原因として「日勤教育等のJR西日本の管理方法が関与したと考えられる」と報告されています。鉄道は何よりも「安全」が最優先であり、「安全」は会社から与えられるものではありません。私たちのたたかいによって築き上げるものです。会社の安全は利益のためであり、JR東労組としての安全は命を守るためです。事実を事実として捉えるだけでは意味がありません。その事実の本質を捉え、なぜ事故が起き、自分はどうしていくのかを明確にすることが重要です。今一度、職場から安全議論をつくり出し、「危険と思ったら列車を止める」ことを更に根付かせ、命を守るための安全をつくりあげていきましょう！



鉄道労働者として「命を守るため」の
安全議論をつくっていきましょう！